

「知ってしまったから伝えなくてはならない」

大竹 茜 (MSW)

ゆきさんの講義、家族が寝静まった深夜、自宅のノートパソコンの前で、まるでその場にいるかのような錯覚に陥りそうになりながら、食い入るように拝聴いたしました。新聞記者時代から今に至るまでの貴重なお話を、ありがとうございました。私が医療福祉ジャーナリズム分野に飛び込んでしまったのはなぜか、レポートタイトルにした講義の中でのゆきさんの言葉を聴いて、わかったような気がしました。臨床現場で、日々さまざまな出来事や出会いを通して、本当にいろいろなことを知ることができますが、このほかクライアント（患者さんやご家族）に関する事柄は守秘義務があるため、「これは広く伝えたい、知ってもらう必要がある」とか、「知ってもらうことで何かが変わるのではないか」と思うのに伝えることができず（できないと思いこみ）、悶々としながらやり過ごしてきました。しかし最近、「私たちの思いを多くの人々に知ってもらいたい」という声をよく聴くようになり、どうやったらそれを伝えられるかと考えることが多くなりました。ソーシャルワーカーは社会をよりよくするために変革していく使命があります。これから「発信力」を磨き、1を聞いて10を知るのではなく10を聞いて1を知るという方法も学びながら、私の使命を果たしていきたいと思っています。